

## 図書紹介

◎乾燥地の自然と緑化 ―砂漠化地域の生態系修復に向けて― 吉川 賢・山中典和・大手信人編著 共立出版 233頁 2004年 3,800円+税

私事で申し訳ありませんが、国際緑化推進センターでは毎年海外植林関係のNGO団体のメンバーの方々を対象に、植林技術の入門研修を実施している。その研修生の3割、時には半数近くの方々は、乾燥地の植林に関心があるか、経験者で占められています。ところが、熱帯雨林地域に比較すると乾燥地の植林に関係する情報は極端に少なく、その情報収集は苦勞の種でした。それが今回、表記図書が著者らの努力で出版されたことは、私にとっても大変喜ばしいことで、早速目を通しました。

著者らが前書きで述べているように、本書は乾燥地を生み出す地球の大気循環から乾燥地の水文、土壌を解説し(1章 乾燥地の自然環境)、そこに分布する植生と生育植物の生存戦略(2章 乾燥地の植物)が多面的に解説されている。ついで、現在注目されている砂漠化現象の発生地域と規模、砂漠化を引き起こす背景と原因、それに対する国際的な取り組み(3章 砂漠化)を紹介している。最後に、乾燥地を緑化することの意義、注意点、さらに具体的な緑化技術(4章 乾燥地緑化)が解説されている。

このように多面的で、総合的な乾燥地の自然と緑化の解説書は、これまで日本では入手困難であった。これは日本が多雨地帯に属し、乾燥植生が身近にないこと、砂漠化は遠い外国の現象であったこと等から、この種の研究・経験が不足していたことによるだろう。しかし、筆者らは、長年にわたって中国オールドス地方を中心とした乾燥地で、農学の立場から調査、研究活動を実施してきた。その成果に加えて、幅広い文献調査に基づいて乾燥地の特性、砂漠化とその対策が述べられている。とくに、中国における乾燥地緑化の実践例が詳しく紹介されている。

われわれが宇宙船地球号で生活する以上、地球上でのあらゆる現象は多かれ少なかれ、我々の日常生活に影響する。例えば黄砂や温暖化がそうであるように。そして、今や多くの関心ある人々は、遠く西アフリカにさえ緑化活動に出かけて行っている時代である。本書はこうした人々の活動の案内書になるのみならず、これから砂漠化問題に興味を抱く若い人々にとっては格好の入門書となるだろう。(森 徳典)